

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－09

学校名・団体名	丸森町立耕野小学校
HPアドレス	http://www.town.marumori.miyagi.jp/school/ko_uya_sho/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「耕野小の活動やよさを発信しよう！」 ～山村留学推進～
〈活動・研究の意義、目的〉 <p>・本校は、2011年3月の福島原発の放射能の影響を受け、20名を超える在籍児童が一気に11名まで減少した。震災から約5年が経過、本校も少子化の影響から在籍児童の増加は期待できない。本校は、複式学級・少人数・小規模校である。大規模校にはない教育活動があり、子どもたちが毎日生き生きと学校生活を送っている。その子どもたちの姿を多くの人に知ってほしいと思い、発信することにした。本校の教育活動に魅力を感じ、山村留学（期間限定の転入）をして学びたいという児童がいれば受け入れたいと考えた。山間の生活環境とは違う都会で生活している児童が転入すれば、転入児童・在学児童の双方にとり、それは貴重な出会いであり、いい学び合いができると確信している。</p> <p>・本校学区は、特産物に「たけのこ」や「蜂屋柿」がある。また、農地の活用も容易である。少人数を生かした教育活動、あるいは、地域素材を生かした特色ある教育活動を展開すれば、これからの時代を担う子どもたちにとり、素晴らしい教育を提供できると確信している。</p>	

1 総合的な学習の時間を活用した取組

<農園作業や地域の特産物である柿に関する活動(主な活動は4月~12月、大根は2月まで)>

(1) ジャガイモの栽培から収穫、収穫したジャガイモの活用 <活動内容、並びに成果>

- ・4月、ジャガイモ(品種:インカのめざめ、メークインと男爵)の種イモを植え、7月中旬に収穫。収穫量は約150kg。総合的な学習の時間のねらいに沿って活動を進めた。子どもたちが収穫したジャガイモは、世話になった方への御礼、ジャガイモを使用した料理や収穫祭でのイモ煮、子ども独自のパッケージ(袋)に入れたジャガイモの販売活動、学習発表会に来校したお客さんに自分たちの育てた野菜を入れたカレーライスを作って食べさせる等であった。特に、販売活動では、放射能の検査を行ったり、写真入りのオリジナルパッケージを作成したりした。学区内の販売店「いなか道の駅」の協力の下、店内に品物を並べたり、ラベルを貼ったり等、販売の準備を行った。子どもたちの生き生きとした活動に地域の皆様や保護者の皆様にも喜んでいただくなど、昨年度以上の成果を上げることができた。

(2) 巨大大根作りへの挑戦 <活動内容、並びに成果>

- ・昨年に引き続き、広島県因島に本社のある「万田酵素(株)」から巨大大根の種を取り寄せ、巨大大根づくりに取り組んでいる。昨年度は、全国巨大大根コンテストで第11位。1本の大根の重さが11.8kg。今年度はトップ10入りを目指している。8月下旬、大根の種まきを行った。その後、子どもたちは、定期的に万田酵素の水溶液を大根に散布し続けた。巨大大根のコンテストは、毎年3月上旬。ところが、宮城の冬(1月~3月)は氷点下になったり、大雪が降ったり等、大根の成長には適さない。一般的に大根の収穫は12月まで。しかし、3月上旬まで世話をして大根を大きくしなければならぬ。子どもたちの力だけではできないが、今年はビニルハウスを設置した。外気温が10度以下でもハウスの中は30度程になる。現在も巨大大根作りに挑戦中である。

(3) 上記以外の野菜作りへの取組 <活動内容、並びに成果>

- ・借用した畑(約3畝)や学校園には、大豆・トウモロコシ・トマト・なす・きゅうり・ねぎ・サツマイモなどを栽培した。野菜づくりでは、昨年度、トウモロコシがサルに食べられるという被害にあった。子どもたちは、その対策として、トウモロコシ専用の囲いや案山子を作成した。その甲斐があって、今年は、美味しいトウモロコシを食べることができた。学期末の活動として、「流しそーめん」を食べたが、子どもたちの育てた野菜が次々に流れてきて、楽しさと美味しさを味わうことができた。サツマイモの収穫時期には、近隣の児童館から園児8名を招待し、園児と一緒にサツマイモ掘りを行った。来年度入学する園児もいるため、幼保小連携活動の一助となった。小さい子の面倒を見る姿も見られる等、いい活動となった。

(4) 耕野の特産物(蜂屋柿)干し柿づくり体験 <活動内容、並びに成果>

- ・本学区には、蜂屋柿を使って「干し柿」作りを行っている農家がある。昨年度に引き続き、ある柿農家から3本の柿の木を提供いただき、子どもたちと一緒に「干し柿」作りに挑戦した。11月上旬、全校児童がタクシーで移動し、柿もぎをした。収穫した数量は2000個以上。今年は、この活動を隣の小学校児童と一緒に行った。隣の小学校長からは是非今年と一緒に交流させてほしいという要望があつての活動であった。本校児童の活動のよさを広めることにもなったし、他校の子どもたちと一緒に活動できたことは、いい交流活動となった。1月中旬、出来た「干し柿」は地域の店や仙台の丸森フェスタで販売したり、お世話になった方へ御礼したり、みんなで食べたりした。耕野という地域は山間地であるが、地域の人々は、生きるために、こうした作物(柿や筍、椎茸)等を商品化して収入を得ていたことを学ぶ良い機会となった。

(5) 総合的な学習の時間、ねらい達成 <活動内容、並びに成果>

- ・これからの時代は、変化の激しい社会であり、たくましく生き抜いていくためには、変化に対応した柔軟な発想やたくましく生き抜いていく強い精神力や体力、そして、アイデア(知恵)も必要である。厳しい世の中をたくましく生き抜いていくためには、課題に対し、自らが主体的、且つ積極的にかかわり、よりよい解決策を見出し、課題を克服していかねばならない。この地で生きていくため、作物を育て、販売し現金収入を得ることは容易ではない。サルやイノシシ等からの作物被害への対応や商品化するための工夫等をしなければならない。子どもたちには、体験を通して、様々な課題解決を図らせることができた。身をもって学ばせることができたことは大きな成果である。

2 本校の伝統的な教育活動と外部への発信 <活動内容、並びに成果>

- ・「群読、合唱や合奏、体育的取組(表現)、よさこいソーラン、和太鼓演奏」は、本校児童が9年前から伝統的に取り組んでいる活動である。このような活動を通して、子どもたちは、表現力や発表力、あるいは、音楽を通じたハーモニーの大切さ、思いやりや協調性なども学んでいる。保護者や地域の皆様には、学習発表会:「学びのフェスティバル」で発表できたとし、学校のHPや学校便り等でも発信しており、多くの人々に本校の教育活動を理解していただくことができた。

3 山村留学推進と特色ある教育活動 <活動内容、並びに成果>

- ・少人数・小規模校対策と地域振興も兼ねた山村留学推進に取り組んだ。学校のHPで要項を発信したり、関係各所にチラシを配布したり、PRをしたりした結果、アメリカ・東京都・仙台市から3名の留学児童の転入があった。6年生2名、4年生1名である。NPO法人全国山村留学協会という全国ネットの団体に加盟登録したことが功を奏したようである。山村留学児童が転入したことで、在学児童・転入児童の双方にとり、貴重な出会いと授業での学び合いが見られた。マスコミにも取り上げていただくなど、活動の目的である「耕野小の活動やよさを発信しよう」を達成することができた。今後も本校ならではの特色ある教育活動を発信し続け、子どもたちにとってより良い学びの場を提供していきたいと考えている。

4 あらゆる機会を通して外部へ発信

- ① 学校便り(地域320戸への配付)、②学校のHPで教育活動の紹介、③学校行事に地区民招待・発信、④校長の話等